

盛岡城跡について、発掘調査成果や絵図、古文書等の様々な史料から情報を得て調査を進めています。
これらの情報を組み合わせ、盛岡城の建造物がどのようなものであったのかを探る取組についてご紹介します。

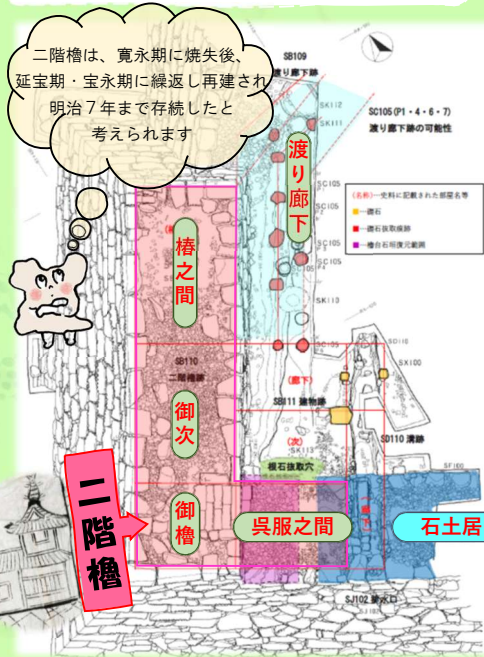
※検証のために整理した情報

これまでの調査成果をもとに、盛岡城の建造物について検証していくため、大きく分けて以下の6つの視点から情報を整理しました。
主に盛岡城本丸二階櫓の規模や柱間寸法について、これらの情報を組み合わせ考察を実施しています。

- ① 二階櫓跡の発掘調査成果
- ② 古写真
- ③ 盛岡城跡本丸発掘調査成果
- ④ 絵図・文献等の各種史料
- ⑤ 盛岡藩の現存建造物等の類例
- ⑥ 他城郭の建造物類例



① 二階櫓跡の発掘調査成果



本丸南西部の二階櫓は、三階櫓(天守)とともに盛岡城を象徴する建物でした。北側と東側に建物がつながるL字形です。櫓台は今も残りますが、公園整備時に石垣の一部が撤去されたことや、新たな石段の取付等のため、礎石や柱穴の痕跡は明らかではありません。周辺には、本丸建物の礎石や礎石抜き取痕跡があり、絵図に描かれる渡り廊下と一致すると考えられ、江戸時代後期には二階櫓と本丸建物がつながっていたようです。

③ 盛岡城跡本丸発掘調査成果

盛岡城跡本丸の発掘調査で、建物の礎石や柱穴等が見つかっていますが、なかでも、北東部の礎石列は注目です。この礎石は、およそ1.9メートル(6尺3寸)の等間隔で並んでいました。本丸建物の「御玄関」周辺にあたる礎石と考えられます。令和7年度の発掘調査(第49次)で、これに続く礎石等も新たに確認しています。



⑤ 盛岡藩の現存建造物等の類例



このほか、盛岡城で使われたと伝わる板戸等の建具の大きさから柱間寸法を算出したり、建具類の下絵や襖の版木、釘隠・引手といった金具類等の建築物の内部意匠に関わる資料の調査も行いました。

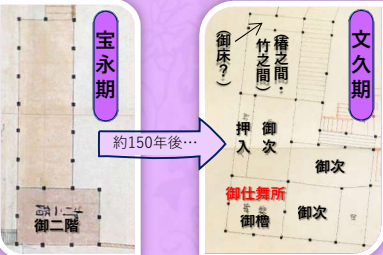
盛岡藩や藩の重臣が建築に関与した、現存する建造物について調査を実施しました。それぞれ土蔵や番所、屋敷と建造物の種類、建築年代も異なりますが、いずれの事例も柱間寸法(柱と柱の間の距離)は6尺3寸が基準となっており、ことが分かりました。

⑥ 他城郭の建造物類例

盛岡藩の建造物に関する情報を収集し検証をしても、史料等の不足から不明な点も残されます。その参考とするため、他城郭の建造物について情報収集を進めています。
二階櫓の類例としては、寒冷地に所在かつ構造面で似通うものとして、金沢城石川門(櫓)や松本城渡櫓・辰巳附櫓等を想定しています。



④ 絵図・文献等の各種史料



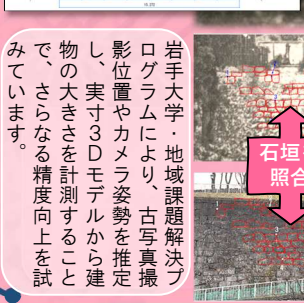
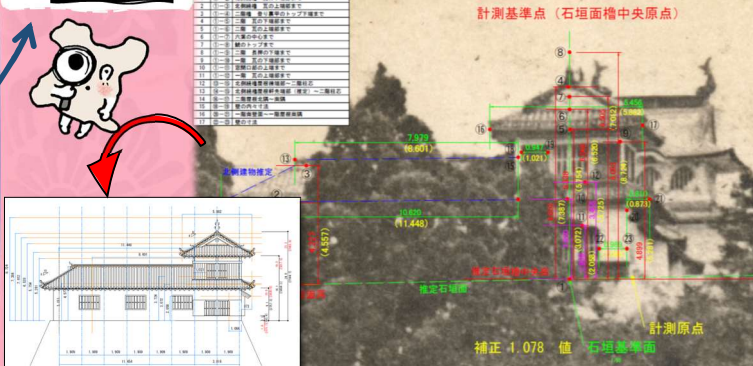
江戸時代に作成された盛岡城の平面図を辿ると、二階櫓が居住的空間に変化した(詳細19号参照)ことが分かります。二階櫓の北側にある櫓は、「櫓之間」、一時は「竹之間」とも呼ばれ、内部には部屋の名前に関する特徴的な障壁画などがあつたのかもしれませんが、そのほか、盛岡藩の屋敷である広小路屋敷や江戸上屋敷絵図、文献資料から柱の太さ・建材の樹種・内部意匠等について読み取り、参考となる情報として整理を進めています。

建造物の規模構造を探る重要な要素に、柱間基準寸法があります。各調査の結果、1間あたりの長さについて、6尺前後より6尺6寸の結果が得られました。
建築時期や用途等によっても、柱間基準寸法は一定でないと考えられます。例えば、現時点では6尺3寸の事例が多いようです。なお、二階櫓跡の発掘調査成果と絵図を重ね合わせると(右図)、1間6尺3寸で櫓台の上に二階櫓等が収まり、かつ発掘調査の柱位置痕跡と絵図が合致します。

盛岡城史資料調査の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。
盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、歴史文化課盛岡城史資料調査担当(019-639-9067)まで、情報提供をお願いします。



② 古写真



盛岡城の建物が写る写真は一種類確認しています。二階櫓の窓や壁、屋根、破風のほか、不明確ですが懸魚や雪止めのようなものも読み取れます。
また、写真から建物の大きさを推定するため、古写真計測を実施しました。古写真に写る石垣と、現在の盛岡城跡の石垣を照合、さらに奥行分の補正を行い距離を算出しました。

岩手大学・地域課題解決プログラムにより、古写真撮影位置やカメラ姿勢を推定し、実寸3Dモデルから建物の大きさを計測することで、さらなる精度向上を試みています。